

三島駅南口周辺開発 地下水対策検討委員会

第7回委員会

-第6回委員会の概要等について-

令和3年7月19日(月)

1. 第6回委員会における

主な質疑・応答の概要

1. 第6回委員会における主な質疑・応答の概要

	質問等	応答、今後の対応等
(3)広域観光交流拠点整備事業の進捗状況	委員: 西街区の事業者が設置した地下水観測井戸について、今後の運用はどうしていくのか。	応答: <ul style="list-style-type: none"> 提言を受け、西街区の観測井戸2箇所について、三島市が引き継ぎ、モニタリングを実施して次回委員会に結果を報告する。 対応: <ul style="list-style-type: none"> これまで<u>継続調査を実施し、地下水への影響がないことを確認した。</u> 調査結果を資料2「2. 三島駅周辺地下水調査結果」に示す。
	委員: 事業者にも協力して頂くことになると思うが、委員会としてモニタリングを継続する体制づくりを求めたい。	
	委員長: 本委員会としては市に対し、 <u>西街区について、事業者(東急)が設置した観測井戸2箇所を市が引き継いで、モニタリングを継続することを提言したい。</u> いつまで実施するか、どういう形で実施するか等は今後検討になると考える。	

1. 第6回委員会における主な質疑・応答の概要

	質問等	応答、今後の対応等
<p>(4)三島駅南口東街区市街地再開発事業の進捗状況等について(P.21～P.22)</p>	<p>委員長: 低層棟が予定されている付近の地下水と建物基礎の下端との差がおそらく3～4mである。ちょうどいい場所に観測井戸がないことも事実である。</p> <p>委員: 観測井戸が2つだけでは判断がつかない。西街区では、水位が高い現在でも地下水位が地表から約12m下で、建物基礎が約3.5mであったため、これなら大丈夫だよなという感覚であった。<u>東街区の低層棟では離隔距離がその半分程度しかない可能性があり、それが大丈夫かという議論もして頂きたい。事業の実態に合わせて、観測井戸を設置して頂き、その調査結果を当委員会で報告して頂きたい。</u></p> <p>委員長: <u>西街区と同様に、事業者に対し工事前から適地における観測井戸の設置と、地下水位のモニタリングを工事前、工事中、供用後に至るまできちんと実施するように要望を出していくことは、当初から方針として立てていることである。</u></p>	<p>対応:</p> <ul style="list-style-type: none"> 地下水と降雨に関係性があることを確認。詳細は資料2「3. 地下水と降雨の関係性」に示す。 モニタリング計画を検討中。詳細は資料3「5. 事業関係者へのヒアリング結果」に示す。

1. 第6回委員会における主な質疑・応答の概要

	質問等	応答、今後の対応等
<p>(4)三島駅南口東街区市街地再開発事業の進捗状況等について (P.6～7)</p>	<p>委員: 高層棟の位置する場所について、地下水位が基礎構造よりも上昇していないことを確認でき、一つの懸念材料が払拭されたと思っている。<u>地下水に影響を与えないことを前提に計画をしていると思うが、三島市の宝である地下水を保全するため、地下水位を把握する中で、基礎構造を含め検討を進めて頂きたい。</u></p> <p>委員: これまでの調査では、<u>エリアの北側から南側にかけて溶岩がだんだん薄くなることが確認されている。これまでのボーリング調査箇所を見ると、区域の南側でもボーリング調査を実施する必要性があると考えがどうか。</u></p>	<p>応答:</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局としても同様な意見であり、溶岩層の厚さをチェックする必要があると考える。 ただし、ボーリング調査を実施するためには、機材等の配置スペース等の課題もあり、周辺の状況を踏まえながら、適切な場所で調査を実施するよう、改めて事業者へ要望を出したいと考える。 <p>対応:</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規ボーリング調査実施中。